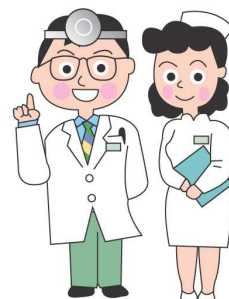


HTLV-1抗体検査を受けるあなたへ

『HTLV-1』

・HTLV-1 (エイチ・ティ・エル・ブイ・ワン) とは…

Human T-cell Leukemia Virus type I : ヒト T 細胞白血病ウイルス-I 型の略称です。世の中にはたくさんのウイルスが存在し、身近なところではインフルエンザや肝炎もウイルスによるものですが、HTLV-1 も古くから存在しているウイルスの一つです。このウイルスは、古くから人類と共存してきたもので、主にヒトの白血球 (リンパ球) に感染します。日本では九州を含む西日本に感染者が多いことが分かっています。



・HTLV-1のキャリアとは…

HTLV-1はレトロウイルスと言う種類のウイルスで、細胞に感染するとその中の遺伝子に入り込み、細胞とともに生き続けるため、感染によって作られる抗体を検査することでウイルスの存在を知ることができます。HTLV-1抗体陽性と判断された場合、HTLV-1に感染していることを示しており、そのような人をキャリアと言います。

『感染について』

・HTLV-1の感染経路について…

HTLV-1の感染はキャリアからの生きたリンパ球が体内に入ることで行われます。感染経路としては、次の三つがあります。

① 母子感染 ② 性行為感染 ③ 輸血による感染

輸血による感染は、HTLV-1抗体検査により、ほぼ100%阻止されていますので、**主な感染経路は母子感染と性行為感染 (主に夫から妻)** です。

・HTLV-1の感染力について…

HTLV-1の感染力は極めて弱く、大量のリンパ球が入らないと感染しません。したがって、日常生活 (水、衣類、食器、寝具、器具、蚊、銭湯、歯の治療、ハリ治療、理髪など) を介して感染することはありません。くしゃみ、せきなどでも感染しません。授乳・性行為を除く普通の生活での感染はありませんので、特別な配慮は必要ありません。

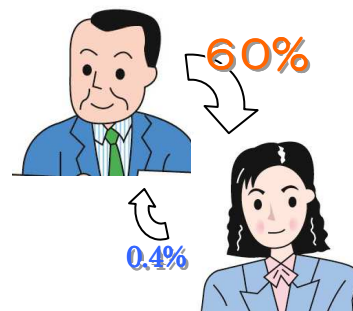
・母子 (母乳) 感染について…

母子感染は**母乳のリンパ球による感染**が大部分です。まれに経胎盤感染、産道感染があると考えられています。これまでの調査では6ヶ月以上の長期授乳による母子感染は15~20%程度といわれています。また、人工乳により大部分は感染の防止が可能です。人工乳の方法も初乳から断乳する完全人工栄養と生後満3ヶ月までの短期授乳の後に人工乳に切り替える短期母乳栄養等様々な方法がありますが、詳しい栄養摂取の方法については、産科医等へ御相談ください。最近のデータでは若い世代のキャリアが激減していますが、母子感染の予防は次世代へウイルスを伝えない最善の方法です。



・夫婦間感染について…

性行為の場合は、精液中のリンパ球がウイルスを運びますので、**主に夫から妻へ感染**します。夫婦間の性行為での感染は、10年間でHTLV-1抗体陽性の夫から妻へは60%であり、同じく妻から夫へは0.4%で極めてまれでした。妻に感染しても子どもへの感染は先に述べたように、防止可能です。いずれにしても、感染リンパ球が入ったからといって必ずしも感染するものではありません。



『疾患について』

・HTLV-1関連疾患とは・・・

HTLV-1感染に伴って起こる可能性のある疾患は、次のとおりです。

- 1 成人T細胞白血病・リンパ腫（ALT）：リンパ球の一種（T細胞）が腫瘍化する疾患
- 2 HAM：（ハム：歩行障がいや排尿障がいを引き起こす脊髄疾患）
- 3 ぶどう膜炎（眼球内のぶどう膜の炎症）
- 4 その他

・関連疾患の発生頻度

40歳以上のキャリアで年間1,000人に一人の割合で成人T細胞白血病・リンパ腫（ALT）を発症します。またHAMの発症率はALTより低く、キャリアで年間3万人に一人と推定されています。いずれにしても発症するのはキャリアの方のごく一部であり、また感染しても直ちに発症するわけではありません。ほとんどのキャリアの方は生涯、関連疾患を発症することなく過ごしておられます。

・ALTの症状

ALTでは主に次のような症状がでます。

- 1 痛みを伴わないリンパ節の腫れ
- 2 治りにくい皮膚病変（皮疹）

40歳以上のキャリアの方でこのような症状がある方は最寄りの医療機関（血液内科のある病院）への受診が必要です。

・HAMの症状

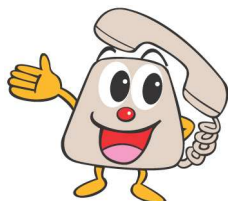
HAMでは次のような症状がでます。

- 1 排尿、排便障がい
- 2 歩行障がい
- 3 下肢の持続性の脱力

このような症状がある方は最寄りの医療機関（神経内科のある病院）への受診が必要です。



『御相談は』



相談を希望される方は、遠慮なく最寄りの保健所に電話をおかけください。あなたのプライバシーは堅くお守りします。

なお、電話相談では疑問や不安が解消されない方や、受診を希望される方には専門医療機関を御紹介いたします。

詳しい情報は、厚生労働省のホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/htlv-1.html>

あるいは全国共同研究組織 JSPFAD のホームページ

<http://www.htlv1.org/>

を参照してください。